

経済学部
ゼミナール履修者
募集要項
〈2020 年度〉

中京大学経済学部

内容

1. ゼミナールとは.....	2
2. 履修者選抜制度の概要.....	2
3. 募集ゼミナール.....	2
4. ゼミナール履修者選抜のスケジュール.....	3
5. ゼミナール履修者募集の HP とゼミナール履修選抜システム.....	4
5.1 ゼミナール履修選抜システム.....	6
6. エントリーの方法.....	6
6.1 説明会.....	6
6.2 エントリーシート.....	6
6.2.1 エントリーシートの内容.....	7
6.2.2 エントリーシートの書き方.....	7
6.2.3 エントリーシートの提出.....	7
6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について.....	8
7. 審査.....	8
7.1 個別審査に関する連絡方法.....	8
7.2 面接について.....	8
8. 履修ゼミナールの確定.....	8
9. ゼミナール非確定者について.....	9
10. ゼミナール紹介.....	9

1. ゼミナールとは

経済学部におけるゼミナールとは2年の秋学期から4年の秋学期までの2年半の期間に開講される少人数制の演習科目の総称のことです。授業科目としては演習Ⅰ(2年秋学期)、演習Ⅱ(3年通年)、演習Ⅲ(4年通年)となります。注意事項として、同一の担当教員の開講する演習科目(演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ)を順番に履修し、単位を修得する必要があります。ゼミナールでの授業内容は教員によってさまざまです。ゼミナールの受講者や状況に応じて内容や選抜方法を変更するゼミナールもありますので、個別のゼミナールの内容や選抜の条件をよく確認してください。

2. 履修者選抜制度の概要

中京大学経済学部のゼミナールの履修者選抜の方法はマッチングメカニズムを応用しており、以下の特徴があります。

- A) 学生はエントリーシートに必要な事項を記入し、履修を希望するゼミナールにエントリー(履修申請)する。
- B) 学生は複数のゼミナールにエントリーでき、それらの希望順位を決定する。
- C) ゼミナールの募集人数は教育内容や方法に応じて担当教員によって設定されており、事前に公表される。
- D) ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を事前に提示した方法と基準に従って審査し、評価順位を決定する。
- E) 履修者選抜システムが、学生が設定した希望順位と担当教員が決めた評価順位に基づいて各ゼミの履修者を確定する。
- F) 選抜はシステムが決められたルールに基づいて行うため、各学生の希望順位は担当教員に開示されない。また、各教員の評価順位も学生には開示されない。

注意事項

複数のゼミナールにエントリーする場合は、ゼミナールごとにエントリーシートを提出する必要があります。また、ゼミナールにエントリーしたとしてもゼミナールを履修出来ない場合があります。

3. 募集ゼミナール

履修者を募集していないゼミナールがあります。募集状況については、本冊子の後半(10p以降)の個別のゼミナール募集要項で確認してください。

4. ゼミナール履修者選抜のスケジュール

選抜期間

エントリーシート提出期間	～5月22日（金）
審査期間	～6月19日（金）
履修ゼミナール確定日	6月22日（月）

5. ゼミナール履修者募集の HP とゼミナール履修選抜システム

2020 年度のゼミナール履修者の募集は、以下の HP で公開しています。

<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/lecture/summary.php>

また以下の方法でもアクセスできます。

- (1) 経済学部の HP (<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/>) を開く。
- (2) メニューの『ゼミナール履修者募集』をクリックする。
- (3) 『ゼミナール履修者の募集について』、『募集日程』、『エントリーシート』の各項目を確認する。



図 1 経済学部の HP 及びゼミナール履修者募集のリンク

5.1 ゼミナール履修選抜システム

ゼミナールへのエントリー、及びそれらの希望順位の設定についてはゼミナール履修選抜システムを利用して行います。

上記の HP (<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/gakubu/zemi.html>) にアクセスしてください。本システムのマニュアルについては5月の月上旬までに HP 上にて公開します。

6. エントリーの方法

エントリーとは履修を希望するゼミナールに対して志望書（エントリーシート）を提出することです。複数のゼミナールにエントリーできますが、最終的に履修できるゼミナールは1つに限られます。ただし、他の学生のエントリー状況や審査結果によっては、ゼミナールを履修できないケースもありますので、選抜にベストを尽くしましょう。なお、この選抜では複数のゼミナール(三つ以上)に応募しないとどのゼミナールにも所属でき可能性が高まります。

個別ゼミナールの募集要項や説明会などで得た情報を活かし、ゼミナールの内容や特徴をよく理解した上で、十分な数のエントリーをするようにしてください。なお、先述したように、エントリーは経済学部の HP からゼミ履修選抜システムで行います。その際には、ゼミナールの履修の希望順位も合わせて設定します。

6.1 説明会

ゼミナールによっては個別に説明会を開く場合もありますので、ゼミナール紹介の「3. 説明会・質問の対応について」をよく読んで、担当教員の指示に従ってください。また、説明会の場ではなく個別に質問等を行う場合も、各ゼミナール紹介の「3. 説明会・質問の対応について」に書かれたルールを守りましょう。

6.2 エントリーシート

エントリーシートは履修を希望するゼミナールの履修者選抜に参加するために提出する書類のことです。経済学部のゼミナール履修者選抜制度では複数のゼミナールにエントリーすることが可能です。複数のゼミナールにエントリーする場合にはそれぞれのゼミナールにエントリーシートを提出します(3つのゼミナールにエントリーする場合には異なるエントリーシートをそれぞれのゼミナールに1枚ずつ計3枚提出します)。エントリーシートはゼミナール担当教員が審査をする際に重要な資料となるものです。慎重に内容を検討して提出してください。

6.2.1 エントリーシートの内容

エントリーシートの内容は以下のようになっています。

- **志望ゼミナール**

志望するゼミナール名を書いてください。

- **学籍番号/氏名**

- **志望動機**

そのゼミナールを志望した理由を記入してください。

- **自己PR**

自己PRを記入してください。

- **これまでに特に力を注いだ科目**

勉強面で特に力を注いだことを記入してください。

- **上記以外に力を注いでいること**

上記以外で力を注いでいることを記入してください。

- **ゼミナール指定欄**

この指定欄はゼミナールごとに書く内容が違います。志望するゼミナール紹介の「4. エントリーシートゼミナール指定欄」で指定された内容を記入してください。例年、異なる教員向けのゼミナール指定欄に同じ内容をゼミナール指定欄にコピー・ペーストしている学生が散見されます。エントリーシートの作成は慎重に実行してください。

6.2.2 エントリーシートの書き方

エントリーシートはマイクロソフト社のWORD形式の電子ファイル(ファイル形式 docx)としてゼミナール募集HP上で配布しています。記入する際には印刷したものに手書きをせず、直接コンピューターを利用して電子ファイルとして記入してください。なお、教員によっては、電子ファイルの提出に加えて、別途、追加的な指示があるかもしれません。その場合には、その教員の指示に従ってください。

6.2.3 エントリーシートの提出

エントリーシートは中京大学経済学部のHPから履修者選抜システムを利用して提出してください。提出する書類は、マイクロソフト社のWORDなどで、PDF形式の電子ファイル(ファイル形式 pdf)で保存して提出してください。また、教務課や教員に直接ファイルもしくは印刷したエントリーシートを提出することは認めていません。

エントリーシートの提出は5/22の24時までです。この締め切りを過ぎるとエントリーシートの提出はシステムが受け付けませんので気をつけてください。

6.2.4 エントリーシートの提出・確認方法について

エントリーシートは中京大学経済学部ゼミナール履修選抜システムから提出します。

エントリーシートの提出状況についても、ゼミナール履修選抜システムから確認できます。詳細についてはゼミナール履修選抜システムのマニュアルをよく読んでください。

7. 審査

ゼミナール履修者選抜システムでエントリーシートを提出すると審査期間にゼミナールの担当教員によって審査が行われます。教員によってはエントリーシートによる書類審査だけでなく、面接・筆記等の個別審査を課す場合があります。

7.1 個別審査に関する連絡方法

(1) ゼミナールの担当教員はゼミナール履修者選抜システムの面接予約の機能を利用

(2) ALBO もしくは電子メール(「学籍番号」@m.chukyo-u.ac.jp)にて個別に連絡

個別審査を課す場合には、上記の2つの連絡方法が利用されますので、審査期間中はゼミナール履修者選抜システム、ALBO および電子メールを定期的に確認してください。

7.2 面接について

面接を行うゼミナールの多くは、ゼミナール履修選抜システムの機能である「面接予約」を利用します。ゼミナール履修選抜システムのマニュアルを読み必要な手続きを確認してください。

8. 履修ゼミナールの確定

ゼミナールの担当教員はエントリーした学生を審査し、ゼミナール履修選抜システムに評価順位を提出します。ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員によって公表されている募集人数、学生がエントリー時に設定した履修の希望順位、エントリーした学生に対する担当教員による評価順位をもとに各ゼミナールの履修者を確定します。以下にその具体的な手順を説明しておくので参考にしてください。

ゼミナール履修選抜システムでは、担当教員から選抜前に公表されているゼミナールの募集人数内の評価順位に入っている学生に対して履修ゼミナールを確定します。ただし、複数のゼミナールで募集人数内に入っている学生については、学生が設定した希望順位の高いゼミナールに確定されます。確定した学生は各ゼミナールの評価順位から削除され、評価順位の繰り上げが行われます。この手順を、各ゼミナールについて募集人数が満たされるか、エントリーした学生が全て確定するか、のどちらかの状態になるまで、繰り返し行います。

ゼミナールの履修確定状況については選抜期間終了(6/22(月))以降にゼミナール履修

選抜システムで確認することができます。

注意事項

ゼミナールの履修確定状況については必ず履修選抜システムで確認し、教務課や個別教員に問い合わせをしないでください。

9. ゼミナール非確定者について

ゼミナール履修選抜が終了し、履修するゼミナールが確定しなかった学生が多数の場合には2次募集を行う場合があります。履修するゼミナールが確定しなかった学生は、履修選抜期間終了後も、ALBO、メールの確認を定期的に継続するようにしてください。

10. ゼミナール紹介

以降のページでは各ゼミナールが紹介されています。履修したいゼミナールの紹介をよく読んでエントリーしてください。

1. 研究内容および計画

ミクロ経済学入門・マクロ経済学入門で修得した知識を踏まえながら、経済学の全体像を把握するとともに、市場メカニズムの理解に努める。やがて社会に出た際、経済学部出身者として恥じぬよう、経済学の基礎理論を理解し、経済学がいかに身近な存在であるかを意識してほしい。

2・3年生には主として経済の基礎理論を学ぶが、テキストや進め方は学年によって異なる。但し、基本的には学生と相談しつつ、ゼミの内容を決定し、就職試験対策として、学生の選んだトピックスに関するディスカッションやSPIの練習も行っている。新聞記事のまとめなどは、上級生が添削を行ってくれている。他にも、適性テストと解説を外部の方を招いて実施している。また、上場企業の人事の方や、官公庁の方がいらして、就職に関するお話をお聞きする機会が多い。

2年のゼミには、当初、上級生が来て、ゼミの進め方を中心に指導してくれるのが通例となっている。また、4年生は、最終学年でもあるため、経済に関連する各自の関心事をテーマとしたレポートを課しており、毎回、数人の学生に、レポートの進行状況の報告を割り当てている。最終的には、2年、3年のゼミ生の前で、卒論報告はパワーポイントを用いて行い、学生からの希望により、学生の評価も加味したうえでの評価としている。

私立大学の文系のゼミでは珍しいが、ここ数年、東京の企業から研究費を年間100万円いただいている。お金に見合っただけの研究とその報告に向けて、机上の空論ではなく、生の経済に触れ、いろいろな体験をしてほしい。さらに、昨年度は、上場企業のバレーボールVリーグの地域に根差した活動を企業から委託されており、3年生が参加した。ゼミ時間外の自主ゼミをその時間にあてていた。今年度は、豊田市との街づくりのコラボを実施する予定もある。(尚、ゼミとしてボランティア活動は行っておらず、企業からの研究費、寄付金に基づいての活動である。)

2. 評価方法・基準

意欲ある明るい学生を希望する。エントリーシートは重視するため、熱意あるエントリーシートを期待している。相手を思いやれる人、何かを変えたい人に来てほしい。

中山ゼミは必ずしも成績で集めているわけではなく、これからの伸びしろに期待しており、成績の悪い学生はよい学生を刺激として、ゼミに入ってから皆が成績をアップしている。ゼミに積極的に参加し、ゼミ生間で交流を深め、学業も他の部分とともに伸びてくれる学生を望む。公務員、民間、進学、いずれを目指すにしろ、ステップアップとしてゼミを考えてほしい。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ個別の説明会を実施する予定なので、質問があればそれまでにまとめてきてほしい。日程は合同説明会までに決定する。その際、現ゼミ生が参加し、対応する予定である。また、例年、希望により、実際のゼミを見学してもらっている。皆さん、先生との相性だけでなく、ゼミの雰囲気を見てゼミを選んでほしい。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

最初に学籍番号、氏名を明記し、質問番号と質問内容も記すこと。

- ① あなたが中山ゼミを希望する理由とゼミ生になったら具体的にゼミでどのような活動を行いたいか。この活動とは、勉学に限ることではない。
- ② 将来、目指すものは何かとそれに向けての取り組み。なければ、学生生活をどう過ごしたいか。
- ③ 最近の経済記事で興味あるものは何か。理由と意見を。

5. 学生へのメッセージ

意欲的にゼミに参加できる明朗な学生を希望する。原則として、ゼミにおける学習態度および出席を重視する。尚、企業人や卒業生をゼミに招き、学外の有益なセミナーの紹介や就活に向けてのアドバイスを行うなど、学生の就職活動を支援しているので、それに応えられる学生の受講を望む。4年生が就職活動状況を3年生に報告、インターンシップの体験を報告するなど学年を超えての交流も深い。また、学生の作成したゼミのホームページやメルマガ配信もあるので、上手に活用してほしい。企業との共同企画や名古屋港見学、豊田市の街づくり企画への参加、東証一部企業主催の論文コンテスト参加など、年度により活動は異なるが、熱心に参加し、何かを得てほしい。

楳 ゼミナール (イギリス社会経済史)

1. 研究内容および計画

近代資本主義が最初に出現したのが、ヨーロッパや北アメリカの西洋世界である。中でもイギリスは、他に先駆けて「産業革命」に成功し、19世紀半ばには「世界の工場」と呼ばれ、海外に広大な植民地をもつ帝国を築いた。その後、世界経済の覇権を失い、相対的産業衰退に苦しんだ時期もあるが、21世紀の現在も存在感のある国の一つである。

多くのスポーツ発祥の地でもあり、政治制度や文芸、住宅や都市計画、音楽やファッションの大衆文化など、この国が世界に与えた影響は大きい。1930年代の世界恐慌の最中、大量失業に対処する経済学の新しい理論をうちたてたケインズや、「ゆりかごから墓場まで」のスローガンで知られる、戦後福祉国家の理念を提唱したベヴァリッジも、共にイギリス人である。

従来、イギリスの近代化・工業化は、日本が見習うべきモデルであった。1960年代の日本の高度成長とともに、このような見方も次第に薄れてはきたが、まだまだイギリスをはじめ欧米の経験に学ぶべきところは多い。

本ゼミナールでは、こうしたイギリスの工業化から今日までの歩みを、広く西洋世界の動向にも留意しながら、経済のみならず、政治・社会・文化・生活・余暇・思想などの観点も交えて多面的に検討する。

2年次と3年次の春学期は、西洋経済史やイギリス近現代史の文献を取り上げ、テキストに基づく学生諸君の発表と討論を中心に進める。使用テキストは、学生諸君の問題関心や希望に配慮し、決定したい。3年次の秋学期は、学生諸君と相談の上、いくつかテーマを選択してグループ学習を実施する。また随時、映画、ドキュメンタリー、報道番組等の視聴覚教材の鑑賞を通じて、イギリスやヨーロッパの歴史や社会の実相に触れてもらう。さらに3年次には、卒業論文作成のための準備作業として、課題文献を定めたレポートの提出を求める。4年次は、卒業論文の指導を行う。各人の関心に基づいてそれぞれテーマを定め、個人面接と中間報告を重ねながら、卒業論文を作成する。

より詳細なゼミナール活動計画について、Web上の演習Ⅰ(2年次秋学期)、演習Ⅱ(3年次通年)、演習Ⅲ(4年次通年)のシラバスを参照してほしい。

参考までに、一昨年度、昨年度の演習で取りあげた輪読文献を挙げておく：

マーク・マズワー(中田瑞穂、網谷隆介訳)『暗黒の大陸 ヨーロッパの20世紀』(未来社 2015)

長谷川貴彦『イギリス現代史』(岩波書店 2017)

須網隆夫、21世紀政策研究所編『英国のEU離脱とEUの未来』(日本評論社 2018)

2. 評価方法・基準

基本的に、エントリーシートの記述内容によって判断する。

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会においてゼミの紹介をする。個別に質問のある場合は、ゼミ生交流会(予定)および火曜日5限のオフィスアワーに研究室にて受け付ける。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

履修を希望する学生は、エントリーシートの「1.志望動機」欄の記述内容との相互関連に配慮しながら、次の④、⑤いずれか一つについて記してほしい。

④すでにイギリス、あるいは広くヨーロッパになんらかの関心をもっている人は、関心をもったきっかけとその内容、勉強したいと思っていること、そして本ゼミナールへの期待・要望

⑤最近関心をもって読んだ本、観た映画やドキュメンタリーの内容、そして本ゼミナールへの期待・要望

5. 学生へのメッセージ

ゼミナールを新たな交流、友人作りの場と考え、各々の学問的興味や問題関心に基づいて、あくまで個人として希望のゼミナールを選んでほしい。次のような学生諸君の履修をとくに希望する：

①歴史の好きな人、②イギリスの社会や英語の文化に関心をもつ人、③日本やヨーロッパ、アメリカとの比較の観点からイギリスに注目している人、④活字を読んだり、文章を書いたりすることが好きな人、⑤自由時間を図書館で過ごすのが好きな人

私たちは、人生で重要な決断を迫られたとき、また世の中の出来事を評価する際、意識的に、あるいは無意識のうち過去の事例との対比を行っていないだろうか。このゼミナールを通じて、人々が過去に、さまざまな境遇の下でいかに生き、行動したかを理解し、今日の社会状況や日々生起する新しい事態に知的な対応をとれるようになってほしい。

近藤ゼミナール(国際経済学)

1. 研究内容および計画

本年度はアジア諸国やその他の新興国の経済事情について研究をします。私の担当する講義では、国際経済学など理論的な内容を中心に扱っており、こちらが一方的に教えています。しかしゼミでは学生の活動が主体となるため、経済理論は使いません。講義の内容をイメージしてゼミに入ると、期待したものと違ったこととなりますので、留意してください。

はじめの1年半は共有する知識の確立のために、『そうだったのか、中国』(池上彰、集英社文庫)や『図解 ASEANを読み解く』(みずほ総研、東洋経済)のような入門書から出発して、学生の希望をもとに3~4冊の本を選んで輪読します。学生は各自が担当することになった箇所の内容について、その他の文献・資料に幅広く当たって最新の情報を調べ、パワー・ポイントを使ってプレゼンテーションすることになります。情報の更新は非常に大切で、本に出ている古いデータが現在どう変化しているかを調べてこなくてはなりません。またプレゼンの能力は社会に出てすぐに必要となりますので、ゼミではそれを鍛えることも目的としています。さらに報告者に対する適切なコメントやディスカッションができるようになることも目指します。

3年生の秋学期の終わり頃にインター・ゼミがあります。3年生になったら10人程度のグループに分かれて研究テーマを決め、通常のゼミの活動と並行して共同研究をすすめ、研究内容を名古屋大学、南山大学、愛知大学等他大学の学生の前で40分程度報告します。レベルの低い報告ははっきり言って恥ですので、内容もプレゼンの仕方も質疑応答も、高いものが要求されます。

4年生になったら、各自でテーマを選び、卒業論文作成の準備に取りかかります。ゼミでの発表も卒業研究から自分でコアとなるものを選んで報告することになります。ゼミで指摘されたことを受けて、各自研究をいっそう磨き上げ、1月に卒業論文として提出してもらいます。400字詰め原稿用紙換算で50枚必要です。過去の卒業論文のテーマはさまざま、広く国際経済に関するものなら何でも認めます。学生生活最後に腰を据えて研究をするのですから、自分のやりたいテーマをじっくり探して見つけてください。

2年生の春休みにゼミ勉強合宿があります。全員参加ですのでそのつもりで。

2. 評価方法・基準

希望者が多数の場合は、就職活動と同様にエントリーシートと面接で評価をします。制約がある中でいかに自分の能力、価値ややる気をアピールできるかが、企業の就職活動でも問われますので、就職活動と同様の心構えでエントリーシートに記入し、面接にも臨んでください。

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会では近藤ゼミの活動について、概略を説明します。ゼミの学習活動についての質問や個人的な質問は、オフィス・アワー(木曜日12時20分から13時)で対応します。学生主体の活動に関することなどは、別途予定されている先輩からの説明会で聞いてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

中国、韓国、アメリカ、イタリアのどこか1つの国を選んで、あなたがやりたいビジネスを計画してみてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミはできるだけ自分たちの関心にしがたって勉強する場としたいと思っています。必修科目ではないので、しっかりやろうという気持ちの強い人を待っています。

楽しくなければゼミは少人数の講義とたいして変わらないものになりますが、それには学生が自分たちでこんな楽しいゼミにしたいと動くかが重要です。基本的にこれまでの近藤ゼミの諸活動は、学生の発案を受け入れる形でなされてきました。楽しいことができるかどうかは、自分たち次第です。

ゼミは学生生活の後半になって新しくスタートし、2年半も続きますから、新しい友人を作る最後のチャンスでもあります。私がそうだったように一番の親友と出会えることも十分あると思います。

最後に、5-6人義務付けられるゼミ合宿での報告者、男女各1名の卒業論文免除者をどのように人選しているのかについては、ここでは書かないので先輩などから聞いてください。

阿部ゼミナール(日本経済史)

1. 研究内容および計画

経済史とは経済現象の長期的分析を進める学問です。長期的分析を歴史的分析といいかえることもできます。日本経済史は、経済面から日本社会の歴史を明らかにしようとする学問なのです。

このゼミでは、身近な地域をとりあげて、経済学の1分野としての経済史の方法について学びます。経済史の方法というと難しく聞こえるかもしれませんが、経済学を前提とした歴史的な考え方、歴史資料の読み方に触れてもらいたいと考えています。

2・3年次では、江戸時代から現代までの地域社会の変貌を物語る歴史資料を取り上げます。20世紀末からすでに言われていたように、21世紀には、グローバル化と情報化の急激な進展によって、江戸時代以来の歴史的な特質や伝統は、消滅の最終局面を向かえつつあるようです。

文書や碑文、絵図や写真等、様々な歴史資料を読み解き、地域社会の変貌過程をたどりながら、歴史的な特質や伝統の行方について、みなさんと語り合うことができたらと思っています。

また、3年次の秋学期からは、各自がテーマを決めて、ゼミ研究に取り組みます。日本各地の経済や社会を歴史的にみても、興味深い研究テーマがたくさんあるように思われます。また現在みられる地域の問題を、歴史的に分析するのも、おもしろいかもしれません。

ゼミ研究では、各自の関心に基づき、調査を繰り返してテーマを掘り下げ、最終的には4年次の秋学期末にゼミ修了論文を完成させます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの記載内容に基づいて決定しますが、必要に応じて面接を行う場合もあります。

3. 説明会・質問の対応について

質問には火・水・木曜の昼休み(12時半以降)に、阿部の研究室で対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

出身地や居住地等の歴史のなかで、一番関心・興味を持っている出来事や文化財について、具体的に挙げて、その理由を述べる。

5. 学生へのメッセージ

日本経済史は経済学の他の分野とちがいで、必ずしも数学や統計の知識を必要としません。最近では、研究対象とされる歴史資料の幅も広がってきています。文献・文書・文化財をはじめ、写真・映像、さらに産業遺産や近代化遺産と呼ばれる機械・設備・工場等、日本経済史の研究材料は実に多彩です。日本各地の歴史や文化に興味を持ち、好奇心の強い人達を歓迎します。

釜田ゼミナール(経済政策)

1. 研究内容および計画

政府は、財政、金融、貿易、環境、医療、福祉、教育、労働などのさまざまな分野において、直接的に経済活動を行ったり、民間（家計・企業）の経済活動に影響を与える間接的な活動を行っている。経済政策とは、このような政府の活動のすべてを含む。本ゼミナールでは、さまざまな分野から、最近、社会で注目されている問題を取り上げて、なぜ政策が必要とされるかということや、どのような政策をとると、どのような効果が期待されるのかということについて考えていきたい。具体的には、少子化対策、年金・医療・介護保険政策、教育政策、文化政策・観光政策、選挙制度の問題などに私は興味を持っているが、履修者が興味のある問題があれば、それも取り上げる。

ゼミの進め方としては、なるべくさまざまな問題を選んで勉強したいので、特定の教科書は使わない。テーマに応じて私が文献を用意するので、それを基にしてグループ（3～4人）で順番に報告してもらおう（2年秋～3年）。これにより、グループによる問題解決の方法を身につけるとともに、個人レベルでの分析能力とプレゼンテーション能力の向上を図る。また、政策(行政)の現場を知るために、市町村など自治体との連携も考えている。

現実の経済データにあたってみることは、経済問題の本質をとらえる上で大変役立つので、4年次には、パソコンを用いて経済データの処理の仕方について学習する。そして、学生各自が選んだテーマについて、自分でデータを集めて分析を行い、卒業論文を作成する。

本ゼミナールでは、経済学の専門知識を蓄積するとともに、社会で活躍できるコンピテンシー(特性)を身につけることを行動目標とする。キャリア講座や個人面談などを通じて、キャリア教育にも重点を置いていく。

2. 評価方法・基準

- ・エントリーシートに基づいて、選抜を行う。
- ・Web面接を行う可能性もある。

※志望度の高さを重視する

3. 説明会・質問の対応について

- ・個別説明会のスライドを経済学部HPのゼミ募集ページにアップしたので、見てください。
- ・メールでの質問も受け付けます。アドレス：kkamada@mec1.chukyo-u.ac.jp

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

現時点における卒業後の進路希望について、なるべく詳しく書いて下さい。また、それを実現するためにやっていることや、これからやろうとしていることがあれば、それについても書いて下さい。

5. 学生へのメッセージ

・ゼミ旅行、懇親会、スポーツなどの課外活動も、ゼミ生の希望に応じて行う。旅行は毎年海外に行っている（昨年度は海外渡航自粛のため中止したが）。これまで、イギリス、ドイツ、フランス、香港、韓国などに行った。若いうちに異文化体験をしておくことは視野が広がって大変良いと思うので、積極的に参加してほしい。

・2年半という長い付き合いになるので、ゼミでの勉強およびゼミの仲間との交流に主体的に取り組める学生が望ましい。

小林ゼミナール（保険論）

1. 研究内容および計画

2年生は、保険論の基礎を学びます。

3年生は、参加者の希望に従って、保険論に限らず金融論の様々な分野について勉強します。金融機関や金融市場、金融商品といった分野が主な対象となります。

参考：最近輪読で使用したテキストの一例

「初めて学ぶ保険のしくみ」中央経済社

「新・金融経済と証券投資」中西出版

「ファンダメンタル投資の教科書」ダイヤモンド社P

他にも、グループ学習（グループごとにテーマを決めて調査・発表する）など

もあり、参加者の意向で決定します。

最近は、3年生の秋学期は日経 STOCK リーグ（バーチャル株式投資やレポート作成などの学習コンテスト）に参加することが多いです。

4年生は卒論（テーマ自由）作成・発表が中心です。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容で選抜します。意欲あふれる記述を期待しています。

3. 説明会・質問の対応について

個別に質問がある人は、金曜日 5 限に研究室で受け付けます。気軽に訪問してください

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

最近の経済に関するできごとを自由に一つ選び、あなたの意見を述べてください。

5. 学生へのメッセージ

積極的にゼミに参加する意欲がある人、さまざまな経済現象に興味がある（興味を持つと努力する）人の応募を歓迎します。

鈴木 ゼミナール (都市・交通問題の研究)

1. 研究内容および計画

少子高齢化、人口減少への対応は困難な課題として、われわれの生活に大きな影響を及ぼしています。都市・交通分野でも新規の社会資本整備から既存施設の有効利用へと関心が変化してきましたが、その転換には長い年月と多大な労力が必要です。また、日本列島の各所で頻発する災害からの復興には長期間の粘り強い取り組みが求められています。エネルギー問題や社会基盤施設の老朽化に関するリスクも、さまざまな形で顕在化しつつあります。つまり、我々の未来には問題が山積しています。

本ゼミナールでは、上記の現状認識に立ちつつも基本を重視し、都市・交通問題の構造の理解とその解決方法を経済学的な視点から学ぶとともに、コミュニケーションを重視することで、ゼミ生が多くの人と協力して様々な問題に主体的に取り組める人になることを目標にしています。

2年次には、コミュニティバスという身近な交通プロジェクトの実例をもとに、地域の人々が交通問題に如何に取り組んでいるのかという切り口で、経済理論と現実問題の関係やプロジェクトマネジメントの方法論を学びます。また、2年生から3年生にかけては、ゼミナールで統一したテーマについて各自がレポートを作成し、学生間の相互評価を通じてテーマについて広く知識を修得する協調学習を行います。3年次には、それぞれのレポートに関連する内容をさらに深め、ゼミ生個々のテーマとしてプレゼンテーションを実施し、グループディスカッションの技術を磨きます。また、社会問題の理解や解決を促進するためのツールであるゲーミングシミュレーションにもグループで取り組みます。4年次には、これらを基礎として各自で卒業論文を作成します。内容については、希望があれば、都市・交通以外の分野でも構いません。

さらに詳しい内容についてはシラバスを参照してください。

2. 評価方法・基準

本年度はコロナ禍のため書類選考のみで実施します。鈴木ゼミでは多様な学生に参加して欲しいので成績は評価対象としていませんが、決してバカを優遇している訳ではありません。やる気が大切です。エントリーシートは真剣に書いてください。

1, 2年次の履修相談シートや顔写真などを確実に提出できているかも参考にします。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミナールの内容は合同説明会で説明しますが、詳細はシラバスを参考にしてください。何かあれば、経済学部HPに載っているメールアドレスへアポイントのメールを送って頂けると確実です。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

当ゼミの選考課題は「あなたが好きな都市を代表する景観を画像で紹介し、その景観が代表的である理由とその都市の魅力について説明しなさい。」です。

なお、画像は自身で撮影したものでなくてもいいですが、転載する場合にはその出典を明記することを忘れないようにしてください。例年、都市と自治体の区別がついておらず、落ちる人がいます。岐阜という都市と岐阜県には大きな違いがあります。

5. 学生へのメッセージ

何事にも主体的に取り組む、他のゼミ生と楽しくコミュニケーションができる学生を募集します。

鈴木ゼミでは「リアクションが主役を育てる」を合言葉に誰もが主役になったときにそれを楽しめる雰囲気を作っています。自分の発表でなければ平気で遅刻したり、欠席したりする身勝手な学生は迷惑なので応募しないでください。自ら選んで履修するのだからゼミの時間に教室にいるのは当たり前です。全員がサービス精神を持ってゼミを盛り上げてください。スポーツ、旅行、コンパなどについてはゼミ生の企画力に期待しています。パソコンがない人はバイトを増やして買ひましょう。四年間は思いのほか早いです。苦労を避けず、価値ある学生生活を送ってください。

平澤ゼミナール（財政政策）

1. 研究内容および計画

財政政策とは、政府が公共投資や政府消費などの政府支出、あるいはその財源となる税を変化させることで、経済に働きかける政策のことです。財政政策に関わる問題としては、例えば、経済の変動に対して財政運営、財政政策がどうあるべきか、また、それがマクロ経済に与える影響について（どのような効果があるのか、意図した効果は本当に得られるのか、など）や財政の持続可能性の問題（政府の累積債務問題、政府は破綻することなく政策を実行していけるのかどうか、など）といった問題があります。このゼミでは、そのような財政政策に関わる問題について勉強していきます。

まず、2年次から3年次前半では、財政政策の問題を議論する際の土台となる財政学の基礎を学習します。そのために、ゼミ生の興味に合わせて選んだ財政に関するテキストを輪読します。そこでは、単にテキストを読んでまとめるだけではなく、例えば自分自身でデータを集めてテキストの中のグラフを再現してみたり、データを延長して（あるいは他の国や地方のデータを使って）グラフを描いてみたり、また、理論的な議論を数値例によってシミュレーションしてみたりしながら、テキストをより深く読み込んでいきます。本演習は、ゼミ生が割り当てられた箇所を発表する発表形式で進めていきます。発表者以外のゼミ生も、質問をしたり、発表者と議論をしたりして、積極的にゼミに参加する姿勢が要求されます。続いて3年次後半には、卒業論文のテーマの決定を目指して財政政策に関わる問題について各自（あるいはグループ）で調査、検討をしてもらい、その結果を発表してもらいます。この段階は、まだ情報交換の意味もありますので、他の人の発表を聞いて、そこから何か自分が興味のある問題を見つけてもらっても構いません。そして、4年次には、各自でテーマを設定して卒業論文をまとめてもらいます。なお、卒業論文の内容については、定期的に中間報告をしてもらいます。希望があれば毎回でも構いません。内容がまとまってから発表をするのではなく、定期的に発表をするためにまとめる、という作業を繰り返して、卒業論文を完成させてください。

2. 評価方法・基準

基本的にはエントリーシートに書かれた内容で判断しますが、必要に応じて面接を行う場合もあります（ただし、面接を行う場合は Google Meet を利用してオンラインで実施）。

3. 説明会・質問の対応について

質問にはメールで対応します。経済学部ホームページに載っているアドレスにメールをしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

あなたに関心のある経済（財政）の問題を一つ選び、その現状について簡単に説明してから、それに対するあなたの考えを述べてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミの活動に積極的に参加できる、やってみる前から出来ないと言わない、そんなゼミ生を希望します。一緒に勉強しましょう！

古川 章好 ゼミナール (地方財政学)

1. 研究内容および計画

普段我々は消費税を始めとする税金を払っている。政府は、その税金を使って公共投資等の公共サービスを提供している。財政学では、このような政府が行う経済活動に注目している。財政学で扱う分野は広大であり、例えば「政府」といってもその種類には様々なものがあり、代表的なものとして、国、都道府県、市町村がある。古川章好ゼミでは、都道府県や市町村といった地方政府による税金の取り方およびその使い道を経済学の知識を利用して考察することにより、地方政府が経済に与える影響を考えることを目的とする。

ゼミでは、まず財政学および地方財政学を理解するために必要であり、その基礎となるマクロ・ミクロ経済学の知識の習得を目指す。そのために、ゼミではマクロ・ミクロ経済学に関して学び、知識を再確認する。実際のゼミでは、各ゼミ生の担当を決めた上で、担当部分に関してゼミ生が報告し、質疑応答をする予定である。マクロ・ミクロ経済学に関して3年次の春学期まで学び続けた後、地方財政に関するテーマや関心のある問題をゼミ生で報告し、質疑応答を行う。さらに、他の大学が集まってお互いの研究内容を報告するインターゼミ等に参加して報告することも予定している。4年次にはこれまでの報告を通じて各自で関心のあるテーマを決定し、卒業論文の完成を目指す。

2. 評価方法・基準

エントリーシートの内容および成績等から総合的に判断する。

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会にてゼミの説明を行う。また、個別に質問がある場合は、原則として木曜のお昼休みに研究室で受け付ける。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の2つの質問に教えてください。

- (1) 地方政府と人口減少問題との関係について解説してください。
- (2) あなたの将来の目標と、その目標達成のために古川(章)ゼミで何がしたいのか述べてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミは、ゼミ生が中心となって進められるものです。様々な問題に対して自分で考える能力を身につけるため、ゼミの中で積極的に発言することを求めます。そのために、ゼミ生に対しては、

- (1) 担当部分に関する内容報告
- (2) ゼミでの質疑応答
- (3) テーマ毎のレポート作成

を行うことを要求します。単位認定は、これらの内容と普段のゼミでの発言の様子等を総合的に評価して行います。

内田ゼミナール（行動経済学）

1. 研究内容および計画

内田ゼミでは、行動経済学を学びます。世間では、経済学は現実離れしていて役に立たず、面白くないと言われることがあります。しかし、現在の経済学のフロンティアは、様々なデータを集めて現実世界を分析する実証系の研究方向に大きくシフトしており、行動経済学に代表されるように実際の人間行動を反映した面白い研究やユニークな研究が増えています。また分析手法も、経済実験、ランダム化比較実験、SNS等のインターネット上の大規模データを活用した解析など、様々な進化を遂げています。

本ゼミでは、行動経済学の最先端を、分析手法とともに学びます。分析手法に関しては、特にプログラミング言語である Python（パイソン）を用いて経済実験・データ収集・機械学習等を行う手法を身につけることを目標とします。Python はインスタグラムをはじめとする数多くの IT サービスや機械学習等の分析に広く用いられており、WEB アプリの開発からビッグデータの処理まで様々な分野に対応できる言語です。Python を習得しておくことは、卒業後にも必ず役立つはずで

最近、行動経済学の面白さを紹介した書籍が多く出版されています。しかし、ただ単に「面白い」だけで終わらせずに、分析手法を駆使して行動経済学を使いこなせるようになることがこのゼミの目標です。楽しみつつ、しかし真剣にこのゼミで一緒に学んでいきましょう。

2. 評価方法・基準

成績およびエントリーシートの内容で判断します。

- ・ 行動経済学の基礎にはミクロ経済理論があり、また分析手法の基礎には数学や統計学があります。
- ・ より深い行動経済理論や Python による分析に時間を割くためには、皆さんがこれらの基礎科目を理解していることを前提とする必要があります。

内田ゼミを志望する人は、以下の科目を履修済みか、2 年次の終わりまでに履修するようにしてください。

(1) ミクロ経済学 (2) 統計学 (3) 計量経済学

プログラミングについては初歩から教えるので、経験は必要ありません。

3. 説明会・質問の対応について

研究室訪問（14 号館 425 号室）を歓迎します。木曜日 12:20~13:00 がオフィスアワーです。その他の日時を希望する場合はメール (t-uchida@mecl.chukyo-u.ac.jp) にて事前にアポイントメントをとってください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

内田ゼミで学びたいことや身につけたいこと、今まで力を入れてきたこと、将来の目標など、何でも構わないので、選考にプラスになると思うことについて一つテーマを決めて、600 字程度で書いてください。

5. 学生へのメッセージ

私の研究テーマは環境経済学と行動経済学の境界領域で、企業や人々の環境行動を行動経済学的視点から分析しています。本ゼミでは、特に環境問題に絞らず、行動経済学とその分析手法を広く学んでいきます。また、ゼミ生の興味によっては機械学習等も本格的に学ぶので、データサイエンスに興味のある学生も歓迎します。

都丸ゼミナール (ミクロ経済学・ゲーム理論；経済学的思考をしよう)

1. 研究内容および計画

秋学期にミクロ経済学入門を受講したことと思います。では、ミクロ経済学とはどのような学問だったでしょうか？経済に存在するどの人も、(1)何らかの目標があり (例. 企業であれば利潤最大化) (2)自分のおかれた立場をしっかりと認識し (例. 企業は自分の総費用がどのような式で与えられるか知っている) そして、(3)目標を達成するためにはどのように行動すればよいかを真剣に考え実行している (例. 企業は利潤最大化条件にしたがって生産量を決定する) そういった世界を分析する学問、それがミクロ経済学です。そう、ミクロ経済学というのは「成熟した大人」を分析対象とした学問なのです。とすると、成熟した大人を対象とする学問を学ぶわれわれが未熟のままであるというのはなんとも奇妙なことだと思いませんか？そこで都丸ゼミでは、ミクロ経済学に登場する合理的な主体に見習い、経済学的思考・行動ができる成熟したカッコいい大人になることを目標にしたいと思っています。具体的には、以下のことをしていきます。ただし、みなさんの意見を取り入れて、扱う内容が大きく変わることも十分ありえます。

《基本方針》

2年次：ゲーム理論を学習して、論理的思考を涵養します。

3年次：チーム単位に分かれて研究の手法や報告の作法を学習し実践してもらいます。その成果の確認のために、他大学との共同研究報告会であるインターゼミでの研究報告をしてもらいます。そのほか、希望者がいけば中級ミクロ経済学や数学などの勉強会を別途実施します (現在、英語の教科書を使って数学と上級ミクロ経済学を学習する勉強会の2つが実施されています)。

4年次：卒業論文の作成 (大学院進学を考えている者については、その指導もあり)

2. 評価方法・基準

必要に応じて面接を実施する場合がありますが、基本的にはエントリーシートに基づいて評価を決定するつもりです。おおまかな評価基準は、ゼミナール指定欄で求められている問題に適切に解答できているか (少なくともその意思が見て取れるか)、論理的に記述ができているか、などがメインとなります。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミの内容や方針については説明会で説明します。また、個別的に質問等をしたい場合には、研究室を訪問するなり、メールを送るなりしてください。対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

次の問1、問2、問3のうち、どれか1問に回答してください。Wordでの入力が難しい場合には、手書きのものを画像として貼り付けてもかまいません。

問1 以下の Will Smith の考えを簡潔に要約するとともに、自分のこれまでとこれからの人生と照らし合わせつつ、思うところを述べなさい。

Accomplishment, in Will's eyes, is very much about going the distance. Asked to explain his ascendancy to the entertainment elite, Will said:

The only thing that I see that is distinctly different about me is: I'm not afraid to die on a treadmill. I will not be outworked, period. You might have more talent than me, you might be smarter than me, you might be sexier than me. You might be all of those things. You got it on me in nine categories. But if we get on the treadmill together, there's two things: You're getting off first, or I'm going to die. It's really that simple.

問2 上記の「研究内容および計画」で示した、論理的思考の涵養、研究およびその報告の手法の習得という2つの方針は変えないものとする。このとき、都丸ゼミを充実した、人気のあるゼミにするにはどのようなゼミ運営がなされるべきか。ここでいう「べきか」の対象は指導教員が提供する素材やその内容にとどまらず、どのような学生を育てることを目指すか、学生が卒業をする際にどのような人材になっているように指導するかなど多岐にわたるものと考えてよい。ただし、回答にあたっては、(1)ゼミとは何か (どうあるべきか)、(2)充実しているとは何か、(3)人気があるとは何か、を明確に定義すること。

問3 $f(x) = e - x \log x$ とする ($x > e$)。ただし、 $e = 2.718 \dots$ はネイピア数であり、対数の底は e である。このとき、以下の設問に答えよ。

問3-1 $f'(x)$ を計算せよ。

問3-2 $f(x) < 0$ を証明せよ。

5. 学生へのメッセージ

ゼミでは自分たちが主役だということを認識してください。いかに自分を高めるか、そして、そのためにどのようにゼミを活用するか (あるいは、できるか)、しっかりと考えましょう。ちなみに、大学院を目指す人、ミクロ経済学や数学が好きな人は大歓迎です。

増田 ゼミナール (統計学)

1. 研究内容および計画

統計学とは統計データに関する学問です。統計データというのは数字の集合であるため、数字にアレルギーがあると勉強するのがいやになってしまうかもしれませんが、数学自体は四則演算程度ができれば、なんとかなる学問です。近年はそれにコンピューターとインターネットが加わった感があります。昔は100個ほどのデータの平均を計算するだけでもしんどいものでした(想像してみてください、電卓を100回たたく姿を)。それが現在ではExcelで一瞬に終わります(データを100個分Excelに入れるのはしんどいですが)。また、昔は統計年鑑等を図書館から借りて、ひたすら手打ちしていました。それがインターネットの発達により一瞬でデータを取得することができます。

さて、本ゼミは何をやるかというところから次のようなことです。

「統計データをインターネットから取ってきて、分析を行い、それをプレゼンテーションする」ことを学びます。

2 年次

統計データを取得する方法と分析する方法を学びます(コンピューター実習)

教科書の輪読や統計学の授業は行わないです(必要に応じて講義を行う可能性があります)

3 年次

前半は2年次の続きを行います。ただし、プレゼンの練習も行うようにします。後半はインターゼミ(他の大学と集まって研究報告を互いに行う会)に参加するための準備(自分たちでテーマを決めて、データを探してプレゼンの練習をします)します

2. 評価方法・基準

基本的に書類審査のみで行います。主に1年次の「データから見た経済」と「統計学の基礎」の成績と「統計学」の授業を受講しているかどうかで評価します。補足の評価基準としてエントリーシートのゼミナール指定欄で書いてある内容を利用します。

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会で説明を行います。また、個別に質問がある場合には4月中は水曜日、木曜日、金曜日の昼休みにいるようにしますので研究室に来てください。それ以外の時間でも研究室にいて仕事等が入ってなければ対応します。

また、メール(z109107@m.chukyo-u.ac.jp)でも質問を受け付けます。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

マスコミ等では「ブラック企業」と呼ばれる企業が話題になっています。この企業は「どういう」企業で「どうやって」ブラック企業かどうか判定するかの基準を示してください(基準は他の人でも同じように判定できるように客観的なものを示すようにしてください)。また、その基準に従っていくつかの企業(自分が感心を持っている企業について3社以上)についてブラック企業かどうか判定してそのことをまとめてください。

5. 学生へのメッセージ

本ゼミの目標は「数字とコンピューターに強くなろう」です。ちまたにあふれる数字のうそが見抜けるようになればいいなと思っています。このような方針のため、数字やコンピューターにアレルギーを持っている人は本ゼミナールを希望しない方がいいかもしれません。

本ゼミでは数学はほとんど使いませんし、使う場合はフォローしますので数学をやったことがないという人でも参加可能です。ただし、数学的思考は必要としますので、数学得意な人は大歓迎です。

レクリエーションは学生主体で企画立案をやらせてもらっています。法律を守っている限り自由に遊んでもらってかまいません。

齊藤由里恵 ゼミナール (社会保障・財政)

1. 研究内容および計画

社会保障は、年金、医療、介護、雇用、生活保護、児童福祉など多岐にわたり、個人では対処しがたいリスクを、社会全体で対応する仕組みである。日本の社会保障制度では、何らかの理由で所得を得られず、貧困に陥り生活が困難とならないようにさまざまな仕組みがある。社会保障制度は、誰もが抱える生活におけるリスクに対し、社会全体で費用を拠出し、リスクが顕在化した人に対して給付をするものであり、労働や雇用をはじめとし、私たちの生活に影響を与える。そのため、経済、財政へ与える影響が大きい。

本ゼミナールでは、社会保障制度の在り方を考察するとともに、社会保障制度が経済、財政、労働等に与える影響が大きいことから、社会保障制度のみならず、社会や経済の現象を対象とし、経済学の視点から考察する力を養う。そのため、West 論文研究発表会 (<https://west-univ.com/>) への参加も予定している。

以上のことを通して、**①コミュニケーション能力、②論理的思考能力、③プレゼン能力**を向上させることも目的とする。自分の意見を他人に伝える能力、ディスカッションする能力を身につけることは、就職活動を有利に進めるためにも必要となる。

【演習Ⅰ】社会や経済の現象を考察することをはじめ、スタディスキルやプレゼンテーション技術等基礎的なスキルを磨く。個人・グループ単位での報告を中心に行う。

【演習Ⅱ】社会保障制度をはじめとし、政府の経済活動について、グループ単位で論文の執筆や、ディベートも行う。

【演習Ⅲ】卒業論文の執筆を行う。

2. 評価方法・基準

第1次選抜：エントリーシートの記載内容により判断する。

第2次選抜：面接により判断する。

3. 説明会・質問の対応について

ゼミ個別説明会の実施を予定しているのので、質問等はその時に対応する。

日時は合同説明会にてアナウンスする。

また、メール、もしくは研究室への訪問でも対応する。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

本ゼミナールでは、メッセージにあるような意欲ある学生を求める。

そのため、本ゼミナールにての

1. 目標と計画(どのような活動をしたいか)について

2. どのようなゼミを求めているか

以上2点は必ずエントリーシートへ記すこと。

5. 学生へのメッセージ

本ゼミナールでは、自主性ととも「友人づくり＝ゼミの輪」も大切にします。一生の友人と同じ経験を分かち合うことは、かけがえのない財産である。そのため、講義以外の時間にも上級生ゼミとの交流、大学のイベント、他大学との交流、自主ゼミなども積極的に開催する意欲ある学生を求める。何か面白そうな企画があればどんどん提案して欲しい。

ゼミ合宿(国内)、クルーズ船内(国内+海外)での研修等も予定している。

西本和見ゼミナール (経済学史)

1. 研究内容および計画

このゼミナールでは、経済学史(経済学発展の歴史)を学びます。経済学史とは、どんな人によって、どんな時代背景の中で、どんな経済に関する理論が生まれたのかを過去に遡って見ていくという学問です。

経済学史を学ぶことで何が得られるのでしょうか。私の経験をお話すると、お恥ずかしながら私が大学入学したての時、人の好意でさえお金で買えるんじゃないかと思っていました(本当にお恥ずかしいですが!)。もちろん、そんなこと口には出しませんでした。でも心の中では、世の中結局「地獄の沙汰も金次第」のところがあって、皆、口には出さないだけで、本当はちょっとくらいそういう風に思っているんじゃないかな、と密かに思っていたんです。それくらい大切なのが経済で、だから経済学を学ぶ意味があるのだと。でも、歴史系のゼミに入って過去の経済学者の考えを深く知ること、そうじゃないんだと気づかされました。私たちの知る経済理論は理論だけで独立しているのではなく、その経済学者が生きた「時代」、どんな経済像を捉え、経済はどうあるべきだと考えるかという「ヴィジョン/思想」も合わせて見る必要があって、そうするとこれまで知っていた理論のイメージががらっと変わる、ひいては経済学のイメージも変わる……。それが私にとっての経済学史の魅力であり、得られたものです。このゼミでは、経済学史を通じて、またそれ以外の体験から、自分なりの「気づき」の経験をしてほしいと思います。

2年次後期では、『君たちはどう生きるか』等で自分を見つめる課題を行ったり、ハイルブローナー『世俗の経済学者たち』で経済学史の入門を勉強したりします。

3年次では、興味ある時代や経済学者を絞り、より深く経済学史を学びます。4年次では卒論指導を行います。計画段階ですが、3,4年次では他大学とグループ発表・卒論発表の機会を設けます。

2. 評価方法・基準

エントリーシートで決定します。(必要に応じて面接も行います)

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会で説明を行います。不在のときがあったり、来てもらっても時間が取れない場合があったりしますので、メールをしてから研究室訪問(14号館445研究室)するようにしてください。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

エントリーシートには、次の項目について全て答えてください。

- (1) ①なぜ経済学部に入学しようと思ったのか、②入学した直後の気持ち、③今現在(②と比較して1年数ヶ月経った今)の気持ち
- (2) 興味のある経済学者とその理由

5. 学生へのメッセージ

歴史系のゼミですので、第1に、歴史が好きな方を歓迎します。

第2に、上でも述べたように、このゼミでは「気づき」を大切にしたいと思っています。

「気づき」には次の2つが大切ですので、次の2つを意識できる方も歓迎します。

(1) ゼミ仲間を尊重できる。(Respect)

(2) 自分の考えをゼミの中で仲間に伝える努力ができる。(Communicate)

さらに、相談の上で決めますが、キャリアコンサルタントの資格を持っていますので、時々ゼミの時間を利用してVPIなどキャリア形成に活用できるアセスメントができればと思います。

深井大幹 ゼミナール (金融政策)

1. 研究内容および計画

演習(ゼミ)とは、研究指導を目的に、多くの場合、輪読や発表形式で行う授業のことを言います。理系でいうところの「研究室」にあたり、真剣で責任ある態度と基礎学力が求められます。興味を持って研究に取り組むために、しっかりと指導教員を選びましょう。本演習では、2年生は、3・4年生の準備として、ミクロ経済学の基礎をテキストの輪読形式で学び、学期末試験で成績評価を行います。3・4年生は、様々な教材を通して『金融』について学びながら、各自研究の進捗発表と各学年末に提出してもらったタームペーパーで成績評価を行います(タームペーパーとは、卒業論文ほど形式張らない、5ページ程度の研究報告のことを言います)。

タームペーパーは、学術的な新しさや取り組む問題の面白さを評価の基準とします。もちろん、経済学を学び始めたばかりの皆さんにとって、学術的にどのような問題意識があり、どのようにそれらを解決すれば新しく面白いのかを把握することは大変な作業でしょう。本演習では、随時私が、基礎となる理論や研究者たちが取り組んでいる問題を紹介し、研究の方向性について指導を行いますから心配はいりません。私が専門にしている『貨幣サーチ理論』は、どのような経済摩擦の下で、貨幣やその他の資産が世の中に流通するのかを明らかにしようとする新しい分野です。クラスメートにノートをコピーさせてもらうとき、お金を支払わないのはなぜでしょうか? 私たちはなぜ、企業に直接ではなく、銀行という仲介者にお金を貸しているのでしょうか? サーチ理論はこのような素朴な疑問に答えます。

本演習は、授業に飽き足らず高度な知識を身に着きたい好奇心旺盛な方、金融系シンクタンク・政府系金融機関・コンサル・大学院など金融研究に関連した進路を目指す方に最も向いています(ミクロ経済学の基礎をしっかりと身に着けてもらうので、国家公務員志望の方にも合っているかもしれません)。課題に積極的に取り組み、時間をかけて様々なことを思考しようという意欲に溢れた方に向いているといえるでしょう。本演習では、ミクロ経済学を基礎とした金融を扱います。2年前期までの基礎的内容が身につけていない場合、演習の内容を理解することは困難であると考えます。そのため、「ミクロ経済学」および「経済数学II」を未履修の方には、ゼミ開始時まで勉強しておくべき課題を出します。テキストは、2年生はISBN-10: 4130421271を予定しています(購入の必要はありません)。

2. 評価方法・基準

エントリーシート、成績、面談で評価します。『力を注いだ科目』欄には、(1) GPA、(2)「経済数学I・II」の成績(未履修の場合は経済数学を自習するのに使用した書籍)、(3)「ミクロ経済学」の履修状況(未履修の場合はミクロ経済学を自習している書籍)の3点を必ず記入してください。

3. 説明会・質問の対応について

本演習テーマの『貨幣サーチ理論』について知りたい方は、私にコンタクトをとってください(fukai.hiroki@gmail.com)。オフィスアワーはこちら(<https://sites.google.com/site/hiroki/fukai1/>)。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

面談の日程調整のため連絡しますので、普段使用しているメールアドレスを記載してください。また、次の2点について記述してください。(1) 普段、学問や意思決定において、自分の能力で解決できるかどうか一目で判断できない問題に直面した際、どのような行動をとっていますか。もしエピソードがあれば、それを交えながら教えてください。(2) 研究活動を通じて、私のゼミにどのように貢献できますか。あなたのどのような能力がどのようなメリットをもたらすのか説明してください。

5. 学生へのメッセージ

モデルの背後にある経済学的直観をしっかりと身に着け、自分の言葉で説明することができるような人材になってほしいと思っています。一緒に頑張りましょう。

深堀ゼミナール (労働経済学)

1. 研究内容および計画

労働経済をテーマに、学修や研究を行っていきます。教員は必要な解説・指導・サポートは行いますが、主役となるのは受講生自身です。正規の授業中には、プレゼンテーションを含む報告、ディスカッションを主に行ってもらいます。しかし報告のためには授業時間の外（夏休み含む）で個人あるいはグループで準備する必要があることを了解しておいてください。サブゼミも実施するかもしれません。

2年次には、受講生の興味・関心を拡大・深化させるためにテキストの輪読を予定しています。テキストは受講生と相談して決めます。

3年次には、4~5人のグループで共同研究を行ってもらう予定です。研究成果はISFJ日本政策学生会議など外部で発表してもらうことを目標にします。ISFJの場合は、夏に関西 or 東京で中間発表、12月に東京(2日間)で最終発表の機会があります。そのため懐に余裕があると良いかもしれません。ゼミでは研究の進捗報告、それ以外は輪読等や論文執筆に必要な知識・スキルのレクチャーを行います。

4年次は、各自の興味関心に従って個人で卒業論文を執筆してもらいます。ゼミでは各自の報告と討議を行っていきます。

外部との調整が必要なので確定ではありませんが、希望があれば3・4年次に他大とのインゼミも検討します。インゼミに限らず、ゼミ運営に関する要望があれば是非、受講生サイドから提案してください。

ゼミで肝心なのは受講生が「自分の頭でとことん考え抜く」ことであり、労働経済はあくまで考察対象に過ぎません。仮説を立て、それが成立するのか実証的に解明するプロセスを経験することは、今後の社会を生き抜く上で必要だと考えます。ゼミの間は、和やかな雰囲気をつくりつつも真剣勝負で挑んでください。他者の報告中であっても「自分ならこうする」「自分ならこう考える」と常に考えてください。

学年を超えた繋がり・連携体制をつくりたいので、3・4年次には後輩ゼミ員へのサポートも期待します。

深堀ゼミ応募にあたり、労働経済学Ⅰ、統計学、計量経済学Ⅰを可能な限り2年次に履修し、さらに3年次までに労働経済学Ⅱ、経済データ分析Ⅰを履修してください。応募時の履修状況は評価対象です。

2. 評価方法・基準

エントリーシート(ES)の内容と成績・履修状況によって総合的に評価しますが、必要が生じれば面接も行って評価に含めます。ESでは、記載情報そのものと論理的な文章が書けているかを見ます。なお、各項目の主張の根拠に客観性があると評価しやすいです。

上記を通じて主に確認したいのは「情熱(およびその成果)」「努力の継続性(およびその成果)」「ゼミ活動への熱意・適性」「学問への興味関心の度合い」「文章力」「人柄」です。ESではこれらが評価者に正確に伝わるようにしてください。過大申告・過小申告は厳禁です。

3. 説明会・質問の対応について

個別の質問には時間的・能力的に可能な限り応じますので、研究室訪問やメールでの問い合わせをしてください。「入ってみたら予想と実際が違った」と後悔しないためには、応募前に疑問点・不安点を残さないことが大切です。心理的に抵抗があるかもしれませんが、遠慮は要りません。但し必要最低限のマナーは守ってください。質問をお待ちしています。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

①同世代の人の平均より自分の方が上だと評価する「能力・特性・知識」を具体的に1~8個挙げ、さらにそのうち1つについては何故そう評価できるのか客観的かつ論理的に解説してください。但し、知識は学校の授業で学習したことを除きます(授業範囲を超えたマニアックな知識なら可)。趣味に関する知識はOKです。

②大学入学以降、自主的に(授業目的以外で)読んだ経済分野の書籍や論文の「タイトルと著者名」を記載してください。(主なもの数点。記載なしも可。読みかけは除く。面接を行った際には内容や感想を詳しく尋ねます)

③このようなゼミになってほしいという具体的な要望や、このようなゼミではやっていく自信がない(時間的制約含む)という具体的なイメージがあれば、理由とともに記載してください。

5. 学生へのメッセージ

「真面目だけど楽しい」ゼミが理想です。大前提としてモチベーションが低い人はお断りです。ゼミは希望者のみが履修するものですから、一人でもそういう人がいると他の受講生の迷惑になるだけです。

ゼミは与えられるものではなく、自分たちでつくっていくものです。教員ができるのはせいぜい骨格づくりまでです。活力あるゼミ、愛すべきゼミになるかは受講生の皆さんに懸かっています。加えて、ゼミは学修・研究の場(グループ活動含む)であると同時に、様々な個性が集うコミュニティでもあります。

したがって、意欲があり、主体性があり、オン・オフの切り替えができ、他者と積極的に関わる意思があり、他者の個性を尊重する学生を求めます。当然、レクリエーションなどの親睦企画は学生主導です。

斎藤佑樹 ゼミナール (国際貿易、経済成長)

1. 研究内容および計画

国際貿易とは、異なる国の間で財・サービスの交換（輸出・輸入）を行うことです。国際貿易は経済学において非常に重要なトピックの1つです。また、貿易は現在の世界経済とは切っても切れない関係にあります。これまで、貿易といえば最終財（製品）の貿易が大部分を占めていましたが、近年では中間財（部品）の貿易や生産過程の海外委託（オフショアリングや海外アウトソーシング）などが主流になっています。例えば、本社が日本やアメリカにあるメーカーのスマートフォンは、その部品の多くは日本、アメリカ、韓国などで製造され、本体の組み立てはホンハイなどのEMS企業に委託され、台湾や中国などで行われています。つまり、企業が生産過程を海外に委託し、委託先の企業も部品を様々な国から輸入しています。このように、皆さんの身近な製品も国際貿易と密接に関連しています。このゼミでは、そのような国際貿易に関する問題や貿易政策（関税や補助金、貿易のための援助など）が貿易に与える影響について勉強していきます。具体的な内容は以下の通りです（ただし、ゼミ生の希望に応じて内容等を変更する場合があります）。

○2年次：国際貿易に関するテキストを輪読し内容について議論することで、幅広く国際貿易の内容を学びます。また、報告を通じてプレゼンテーションの能力の向上を目指します。

○3年次：2年次で興味を持った内容に関して調査し、報告を行ってもらいます。自分の報告や他の人の報告をもとに卒業論文のテーマを決め、卒業論文を作成するために必要な内容を学習します。

○4年次：卒業論文の作成とその内容の報告を行ってもらいます。

2. 評価方法・基準

基本的には、エントリーシートに基づいて評価します。（ただし、必要に応じて面接を行います）

3. 説明会・質問の対応について

合同説明会にて、ゼミの概要を説明します。質問は研究室（14号館4階414号室）またはメールにて対応します。

4. エントリーシートゼミナール指定欄(以下の内容をエントリーシートの教員指定欄に書いてください。)

以下の問いに答えて下さい。

問1：国際貿易（国際経済）に関することで、興味のある内容を1つ挙げ、その理由を述べてください。

問2：自分自身の長所について自由に書いてください。

5. 学生へのメッセージ

ゼミにおいて、勉学に励むことは重要です。しかしながら、勉学以外にも他の学生とのコミュニケーションやレクリエーションの企画・運営なども重要な事柄であり、そこから学ぶことも非常に多いと思います。主体的に物事に取り組み、積極的に学ぶことが大切です。ゼミでの活動がより良いものとなるためにも、他人のことやゼミ全体を思いやる気持ちを持って行動してください。